

# 部署紹介

## 小山田記念温泉病院 施設管理課

施設管理課は、病院建物の設備全般を協力業者とともに維持管理している部署です。また、通所リハビリや透析患者様の送迎、訪問リハビリで使用する公用車の維持管理もおこなっています。

最近の自動車はハイブリッドなどで複雑化しており、故障しても自分で修理できずディーラーを呼ぶことが多くなっています。また、スペアタイヤを搭載していない車も多く、パンクをしたらタイヤを持って現場に急行することもあります。

故障により事故が起こったり動けなくなったりして、訪問リハビリや送迎など業務に支障とならないよう、しっかり維持管理していきたいと思えます。



### 第20回 主体会リハビリテーション研究会

第20回主体会リハビリテーション研究会が令和2年2月15日に開催されました。毎年開催される小山田記念温泉病、主体会病院合同の研究会で、リハビリテーションスタッフ約140名が参加しています。今年は7演題の研究発表が行われました。

私はその中の1演題として、「脳卒中ドライバーのスクリーニング評価日本版 (J-SDSA) と神経心理学的評価の関連について」という研究を発表し、最優秀賞を頂きました。自動車運転の再開が出来るかどうか判断するために机上評価を行っていますが失語症のある方は成績に失語の影響が出ることが多いです。失語症のある方でも実施が出来、信頼性のある評価はないかと考えたのが、この研究を始めたきっかけでした。この研究を通じて得られた結果や知識を患者様に還元し、日々のリハビリテーションを通じて少しでも患者様のお役に立てればと考えております。

言語聴覚士 佐野 里夏

### 編集後記



春らしい暖かい気候が心地よく、大好きな季節になりました。季節も生活も変わる日の時、新しい生活が始まる方も多くいらっしゃると思います。

心地よい春の風にさそわれて、お出かけしたい気候となりましたが、新型コロナウイルスにより「いちご狩り」「花見」も断念、せめて気分をかえようと、カーテンを春のものに替えたら部屋の中がパッと明るくなり部屋も気分も晴れやかになりました。最近、近所の河川敷や公園の花々を眺めて散歩するのが新しい日課になりました。

みなさんもこの季節を存分に謳歌なさってはどうか。

(小山田記念温泉病院 ケアワーカー 東 佳子)

# 元気アップ 主体会

2020. 7 Vol.48

## 医療法人 社団主体会 50周年記念式典



### もくじ



医療法人主体会 50周年記念式典	1~2	新入職員紹介	5
就任挨拶	3	施設行事	6~7
新任Dr 紹介	4	部署紹介	
コンビニエンスストアオープン	4	小山田記念温泉病院 施設管理課	8
健康への窓	4	元気アップコーナー・編集後記	8

# 主体会は創立50周年を迎えました

主体会は令和元年11月13日に創立50周年を迎えました。その記念式典が令和元年11月9日、都ホテル四日市にて開催されました。

私ども医療法人社団主体会は、令和元年11月13日に創立50周年を迎えました。これもひとえに、地域の皆様の御支援の賜物と厚く感謝いたします。

主体会は、故川村耕造が自身の誕生日である昭和44年11月13日に19床の有床診療所である川村消化器科・内科を開設したことで産声をあげました。2年後に兄で外科医である陽一先生が加わり、現在の主体会病院の母体となりました。

高齢社会の到来とともに寝たきりや認知症への対応のため、昭和49年に小山田に社会福祉法人青山里会が設立され、入所者の方々の医療サポートのため小山田病院を開設しました。昭和61年に現在の小山田記念温泉病院となり、医療と介護の連携を目指しました。以降も二つの老人保健施設の設定や両病院の拡張を行い、地域の皆様の健康管理のサポートに従事してまいりました。

これからもこの50周年を節目として、さらに次の100年に向かって地域医療を通して社会貢献できるよう、スタッフ一同さらに研鑽に努める所存であります。御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

医療法人 社団主体会 理事長 川村 直人



## 創立50周年 記念日献立

11月13日に主体会創立50周年を迎えることができました。

昼食にお祝いの献立を小山田記念温泉病院、主体会病院にて提供しました。(栄養部)



(小山田記念温泉病院 常食)



## 顕彰碑 門の泉

病院の中央に位置する場所に、顕彰碑「門の泉」が建立されている。その裏面に、「耕した土に陽がふりそそぎ仁愛の森が豊になる。」と刻まれた陶板に初代理事長川村耕造先生と兄である二代目理事長川村陽一先生の二人の名を一字入れ、医療法人社団主体会及び社会福祉法人青山里会の発展に偉大なる功績を遺された両人を永く讃え、主体会創立50周年を記念した碑である。

# 就任挨拶

## 院長就任のご挨拶 院長 村嶋 正幸

平成21年(2009年)4月1日から副院長として小山田記念温泉病院で勤務させていただいておりましたが、この度、令和2年(2020年)4月1日から小山田記念温泉病院の院長に就任いたしました。小山田記念温泉病院は昭和61年(1986年)11月に当地に開院し、私は三代目の院長となります。皆様のご支援のおかげで、長きにわたり地域医療・介護・福祉の一端を担うことができてきました。今後も職員一同、信頼される組織となるよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



名誉院長  
濱口 均

## 小山田記念温泉病院名誉院長就任のご挨拶

令和2年3月31日をもって小山田記念温泉病院の院長職を辞し、令和2年4月1日、名誉院長に就任させていただきました。小山田記念温泉病院は昭和61年11月13日に開院しました。そのときの初代院長は仮谷嘉晃先生です。私は当院が開院時に三重大学第二内科から派遣されました。仮谷義晃先生の後任の院長として平成3年1月21日付けで当時の理事長川村耕造先生から院長職を拝命しました。もとより管理職には適任ではなかったのですが、スタッフの皆さんに支えられ、何とか勤めてきました。院長職を村嶋正幸先生にバトンタッチしたあとは一内科医師として診療を続けていきたいと考えていますので、引き続き皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



副院長  
出口 晃

1977年に小山田病院が開設されました。1986年11月小山田病院を発展的に拡大移転する際に温泉が湧出し、病院名も小山田記念温泉病院と改めました。1987年7月私が当院に赴任しました。今回、副院長を拝命し、身の引き締まる思いです。よろしくお願いいたします。

当院赴任後30年以上経過しましたが、医療・福祉・介護の面でも数多くの変動がありました。その中の一つとして、異なった職種のスタッフが、数多くの職種のスタッフが協力するチーム医療の導入が挙げられます。例えば、感染コントロールチームでは、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師の最低4職種でチームを作っています。他職種との連携、多職種での連携、集合知が重要となってきていると感じているこの頃です。



副院長  
星野 賢一郎

この度、小山田記念温泉病院副院長を拝命いたしました。私は平成14年に小山田記念温泉病院に赴任し、以後消化器内科を中心に診療に従事して参りました。院内の委員会等では、医療安全管理委員会、災害対策委員会、情報システム委員会等の委員を務めてはおりましたが、これまでは専ら臨床診療を中心とした業務に従事しており、病院管理業務の経験はほとんどございません。今後は村嶋院長の御指導のもと、微力ながら病院運営のお手伝いできればと思っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

# 新任 Dr 紹介



主体会病院 循環器内科  
部長 **櫻井 正人**

2020年4月より主体会病院に勤務させていただいております。

1997年に山形大学を卒業し、三重大学第1内科に入局しました。入局して数年間は一般内科医として地域の関連病院で経験を積ませていただき、やがて循環器中心に診療を行う様になりました。循環器疾患というと、何かと緊急処置の多い領域でしたので、救急医療も少し勉強させていただいておりました。2015年より個人的事情により三重県を離れ、兵庫県の宝塚市立病院で循環器内科医として働いておりました。ちょうどその頃から、超高齢化社会に対する準備の必要性が重要視されるようになってきました。循環器領域でも、高齢者の慢性心不全は心臓の問題だけでなく、その他の疾患を合併していることが多く、多岐にわたるケアを行う必要があり、多職種が集まって行うチーム医療が推奨されるようになってきました。それに伴い、病院心不全チームの立ち上げ、緩和医療の勉強などもさせていただきました。

主体会病院の医師の中では、まだまだ若輩者の私ですが、これまで与えていただいた学習機会と経験をもとに、なるべく患者様それぞれのご希望、状況に合わせた医療を提供できるよう努めさせていただき所存です。何卒ご指導ご鞭撻いただきますようお願い申し上げます。

# コンビニエンスストア オープン!

令和元年12月3日、  
小山田記念温泉病院にコンビニエンスストア「デイリーヤマザキ」がオープンしました。食品、日用品など数多く取りそろえています。ぜひお立ち寄りください。



# 新入職員紹介

入社式 令和2年3月23日(月)

主体会病院 25名  
小山田記念温泉病院 13名  
みえ川村老健 6名

合計44名の新入職員が入職しました。



主体会病院 新入職員



小山田記念温泉病院 新入職員



## 放射線検査と被ばくについて

小山田記念温泉病院  
放射線科 田中 直

法律の改正により、今年の4月から、X線撮影やCT検査など放射線を使った検査を受けていただく方に、次のような説明をさせていただくことになりました。

- ①検査の必要性和それを受けることによる損得について
- ②検査で想定される被ばく線量とその影響について
- ③当院における医療被ばく低減に関する取り組みについて

検査による被ばく量は、X線撮影で0.1~0.4ミリシーベルト程度、CT検査で3~15ミリシーベルト程度です。一度に大量の放射線を被ばくすると様々な障害が出ることは知られていますが、これまでの研究では、100ミリシーベルト以下の少量被ばくでは障害の発生は証明されておらず、事実上、病院での検査で障害を心配していただく必要はありません。実際の証明は、診察を担当する医師と撮影を担当する診療放射線技師が行います。その際、ご不安やご不明な点がありましたら是非質問してください。専門的なご相談が必要な場合には、放射線診断専門医で医療放射線安全管理責任者である私が直接対応させていただきます。

# 施設行事

## みえ川村老健

### 松尾さんコンサート

R1.11.26

全国の病院や施設を巡りギターの弾き語りをされている松尾貴臣さんが老健でコンサートを開催。昔懐かしい曲からオリジナルの曲を演奏し、皆さんうっとり聞かれていました。



### クリスマス会

R1.12.18



職員が仮装をして、歌に踊りに盛り上がりました。

### 餅つき

R1.12.4



利用者さんの「よいしょ」の掛け声に合わせて職員が餅をつきました。つきたてのお餅を皆でおいしくいただきました。



## みえの郷

### 運動会

R1.10.9



玉入れや魚釣りをしました。みんなで頑張りました。

### クリスマス会

R1.12.18



クリスマスのお菓子を盛り付けて、おいしく頂きました。

### 食ひろば



栄養士さんが季節に合わせたお菓子を手作りしてくれます。楽しみながら、おいしくいただきました。

### 豆まき

R2.2.5



豆まきのあと、鬼と一緒にぜんざいを食べました。甘くておいしかったです。

